



平成28年度

施政方針

藤 沢 市

目 次

市長就任にあたって.....	1
未来に向けた元気なまちづくり.....	2
(1) 2020東京オリンピック・パラリンピック.....	2
(2) みんなが住み続けたいまちへ.....	4
(3) 郷土の豊かな歴史と文化.....	7
(4) 大切な子どもたちの笑顔.....	8
(5) すべての人がつながり、支えあう人の和.....	10
再生から創造へ.....	12
(1) 13地区のまちづくり.....	12
(2) 活力を創造する自治.....	13
(3) 平成28年度当初予算について.....	15
未来に向かって.....	16

市長就任にあたって

私は、去る2月14日に行われた藤沢市長選挙におきまして、市民の皆様からの温かいご支持とご信託を賜り、引き続き市長の職務を担うこととなりました。

多くの皆様にご感謝を申し上げますとともに、その役割と重責を深く心に刻み、決意を新たに、これからの4年間で「未来に向けた元気なまちづくり」をテーマとして、市政運営に挑んでまいります。

これまでの4年間は、「郷土愛あふれる藤沢」として、湘南の元気都市をめざし、歴史や文化などを大切にしながら、藤沢の持つ本来のポテンシャルが一層輝きを放つよう、取り組んでまいりました。

穏やかな気候に包まれた緑豊かな風景や松風薫る歴史は、藤沢を愛する人々によって育まれてきた財産であり、多様性に富み、創造性の高い市民活動、先駆性の高い地方自治により積み上げられてきた発展の証であります。

郷土を愛する心とともに、次の世代へしっかりと伝えていくよう、42万人の市民の先頭に立って取り組んでまいります。

また、多様な主体とのマルチパートナーシップを「人の和」として、誰もが暮らしやすいまちづくりに還元していく取組も進めてまいりました。

懸命に、そして楽しく、地域のために様々な活動に取り組んでいる方々の声や思いに触れることができ、その笑顔と元気に助けられてまいりました。「郷土愛と人の和が、まちの元気をつくり、未来を創る」、まずはこのことにしっかりと軸足を置き、超高齢社会に向け「健康寿命日本一」に挑戦してまいります。

そして、これからの4年間、私たちには「オリンピック」という共通の目標があります。

友情、連帯、フェアプレーというオリンピックの精神は、市民一人ひとり、地域、そして市政に元気と活力を与えるものとなります。藤沢の明るい未来の創造に向けて、オリンピックの機会をしっかりと生かしてまいります。

それでは、第21代藤沢市長として、これまで先人たちが大切に進めてきた歩みを、市民の皆様とともに力強く踏み出すにあたっての、平成28年度における施策の概要についてご説明をいたします。

未来に向けた元気なまちづくり

(1) 2020東京オリンピック・パラリンピック

2020年には、オリンピックのセーリング競技会場として、江の島が再び世界に発信され、1964年以来、50年という歴史の中で育まれてきた藤沢の文化が注目を集め

ます。

私は、オリンピックの経験と感動が、再び、子どもたちの夢や希望につながり、子どもの体力づくりや生きる力となるよう、取り組んでまいります。

1964年の大会を迎える際には、50年の時を経てもなお、色褪せることなく市民生活の規範となっている「藤沢市市民憲章」が制定されました。

2020年の大会においても、様々な文化や人を受け入れることができる都市の成長、成熟の跡として未来につながるよう、そして、本市の大切な財産である「人の和」やマルチパートナーシップによるまちづくりが、後世に引き継がれる新たな市民文化となるよう、市民の皆様と一体となって様々な取組に挑戦してまいります。

そして、教育、文化、健康増進などの幅広い分野で市民の皆様と一体となって参加し平和、国際交流等を推進し、ボランティアを育む取組も積極的に進め、藤沢の新たな風格や活力となるオリンピックレガシーを創造してまいります。

また、小田急江ノ島線の片瀬江ノ島駅や駅前広場の改修に向けては、鉄道事業者と協力して取り組んでまいります。

さらに、北部の里山の風景などの自然環境や野菜・草花・果樹などの観光資源、さがみロボット産業特区などを活用

した裾野の広い更なる観光誘客に取り組み、観光客数も年間2,000万人をめざし、消費観光による地域経済の活性化を図ってまいります。

2020年東京オリンピックを、地元の皆さんをはじめ関係者の方々のご理解とご協力をいただきながら、ともに課題を乗り越え、この大会を成功させてまいります。

(2) みんなが住み続けたいまちへ

藤沢市は、災害に強いまちランキングや全国の都市経営革新度調査、全国介護・高齢化対応度調査、主婦が幸せに暮らせる街ランキングなど、様々な視点で高い評価をいただき、湘南の元気都市としての地位を不動のものにしつつあります。

私は、このように高い評価をいただいた藤沢市が、みんなが住み続けたいまちとして、更に輝きを増すよう、果敢に挑戦してまいります。

都市の活力を育み、その優位性を高める都市基盤整備については、北部地区の新たな街の息吹となるよう、健康と文化の森のまちづくりや相鉄いずみ野線の延伸の早期実現に向けた取組を進めてまいります。

湘南の玄関口である藤沢駅周辺地区の再整備については、移動の円滑化やバリアフリー化をはじめ、街なみ継承

地区に指定した藤沢宿周辺との回遊性も視野に、まずは藤沢駅北口のペDESTリアンデッキ等の改修に取り組んでまいります。

また、豊かな暮らしを支える都市基盤として、老朽化したゴミ焼却施設の再整備に着手するとともに、道路、下水道等の社会インフラの長寿命化をめざし、機能更新を計画的に進めてまいります。

昨年の鬼怒川の氾濫やゲリラ豪雨など、都市に甚大な被害をもたらす災害が続き、市民の生命と財産を守る災害への万全な対策が求められております。

私は、一人ひとりが高い防災意識を持ち、行動することが防災力の強化につながると考えております。様々な活動団体との役割分担に基づく総合防災体制の一層の強化を図るとともに、防災情報伝達体制の強化、津波避難ビルや防災資機材の拡充などに継続的に取り組んでまいります。

救急車の現場到着4分体制の確立に向け、藤沢北消防署遠藤出張所を開設し、超高齢社会を支える救急救命力の更なる向上を図ってまいります。

身近な暮らしの中で起こる事件や事故から市民を守り、地域における安全・安心を高めることは、極めて重要な課題であります。体感治安の向上を図り、街頭犯罪の抑止につながる防犯カメラの設置については、一層の増設支援に

取り組んでまいります。

空き家の利活用や特定空き家への対応については、団地の再生を含め、介護や地域コミュニティの醸成などにつながる住宅政策として進めてまいります。

高齢化や後継者不足など、農業の担い手の確保は全国的にも大きな課題となっておりますが、市内では若い方々が農業に参入し、藤沢市の農業を支える新たな担い手として活躍されている姿がみられます。

こうした状況がより一層進むよう、後継者育成支援を含めた「藤沢市都市農業振興基本計画」を策定するとともに、「藤沢市地産地消推進計画」の着実な取組と合わせ、藤沢産物の付加価値を高める6次産業化を支援し、都市農業の安定的な継続を図る施策を展開してまいります。

小売店の減少や空き店舗の増加など、商店街やまちの商店を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いておりますが、市内の商店街では、まちの活力を創出する様々な取組が行われています。

こうした取組への支援とともに、更に商店街の活力の増進と市内産業全体の活性化につながるよう、藤沢の新たな魅力として定着してきた「ふじさわ元気バザール」については、関係者の皆様にご協力をいただきながら、バージョンアップを図ってまいります。

（３）郷土の豊かな歴史と文化

市内には、これまで大切に受け継がれてきた藤沢の歴史や文化を伝える街なみや、海、川、台地と谷戸をはじめとする恵まれた自然があり、花や緑があふれています。

旧東海道６番目の宿場町として栄えてきた藤沢宿は、遊行寺などの名所旧跡や江戸末期から昭和初期に建てられた歴史的な建造物などが数多く現存し、貴重な文化を今に伝えています。

私は、こうした財産を維持・保全し、更に発展させながら、次世代に引き継ぐ取組を進め、「ふじさわ宿交流館」を中心とした宿場町の文化にいざなう、藤沢宿周辺の再活性化に取り組んでまいります。

本年１２月に駅開設１００周年を迎える辻堂駅周辺地区は、これから未来に向け、文化、芸術などをテーマに新たなステージに進みます。

市がこれまでに収集した浮世絵の展示をはじめ、浮世絵の世界や地域の歴史文化を発信する起点となる「（仮称）藤澤浮世絵館」については、７月の開設をめざし整備を進め、昨年開設した若手芸術家の活動拠点である^{エフアース}F A S（藤沢市アートスペース）とともに、新たな文化創造発信拠点となるよう取り組んでまいります。

市民会館を中心とした文化ゾーンについては、湘南台文

化センター、湘南C-Xと有機的につながり、藤沢の芸術文化を象徴する拠点となるよう再整備の検討を進めてまいります。

今年度から始まる県立体育センター等の整備と合わせて、歴史的価値を有し、地元の方々が大切に保全してきたグリーンハウスの活用にも、県と連携した取組を進めてまいります。

また、次世代に緑豊かな環境をつなげるため、三大谷戸をはじめとする緑地の保全に引き続き取り組んでまいります。

(4) 大切な子どもたちの笑顔

子どもたちの笑顔は、未来へ向けた社会の希望であります。

私は、子どもたちの笑顔を守り、育むため、これからの社会を担う子どもたち一人ひとりの健やかな成長を地域全体で支えること、また、妊娠、出産、育児に不安がなく、産み育てやすい環境をつくることなど、総合的な子育て施策を進めてまいります。

待機児童の解消については、保育の質の向上と合わせ、その取組を加速させるとともに、家で育児をしている方への支援も充実させてまいります。

放課後児童クラブの整備については、今後の女性の社会

進出や共働き世帯の増加などの社会情勢も踏まえ、整備計画に基づき、平成31年度末までに4,000人の児童が利用できるよう、計画的に取り組んでまいります。

また、子育て世帯などへの支援の充実をめざし、小児医療費助成制度のあり方や新たな給付型の藤沢版奨学金制度の検討も進めてまいります。

子どもの貧困がクローズアップされております。市では児童生徒の約6人に1人が就学援助等の対象者となっており、地区によっては約3人に1人となっている状況があります。

子どもの貧困対策については、「教育支援」、「生活支援」、「保護者の就労支援」、「経済的支援」により、総合的な取組として、子どもの生きる力を育む施策を展開してまいります。

いじめは、どの児童生徒にも起こりうることであります。昨年制定した「藤沢市子どもをいじめから守る条例」の理念に基づき、子どもたちが笑顔で夢と希望を語り、実現できる社会をめざした取組を展開してまいります。

安全・安心で快適な学習活動の場である教育環境については、学校施設の老朽化対策に引き続き取り組むとともに、特別支援教育の更なる充実と市費講師の拡充等によるきめ細かな指導を実施し、より一層の教育力の向上を図ってま

いります。

総合教育会議において協議を重ねている「ふじさわ教育大綱 学びの環・人の和・元気の輪」については、学びを通じたまちづくりとして、大綱の理念を多くの方々と共有し、学校や家庭、地域をはじめ様々な場面において実践してまいります。

（５）すべての人がつながり、支えあう人の和

人生90年と言われ、年齢を重ねても住み慣れた地域で自分らしく健康な生活を継続することは、誰もの願いであります。

しかし、時代の流れとともに、地域ではコミュニティの希薄化が進み、高齢者だけではなく、様々な世代の社会的孤立が問題となっており、地域の空洞化を浮き彫りにしています。

私は、もう一度、地域社会の原点である人のつながりや支えあいを見つめ直していくことが必要であると考えております。

地域には、豊かな知識と経験でご近所の困りごとを解決していただいている元気な方がたくさんおります。こうした方々の活動を支え、向こう三軒両隣などのご近所づくりに取り組む「まちのコンシェルジュ」の検討を進めてまい

ります。

さらに、NPOやボランティア、地縁組織をはじめ、元気な高齢者、自らの思いや資格を生かして働きたい女性、学生の皆さんなど、あらゆる世代の方にこれからの社会を支えていく担い手となっただけの体制を早期に構築し、ライフステージに沿った健康づくりを推進するとともに、社会参加や支えあいによる健康長寿のまちづくりを進めてまいります。

2025年には、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると予測され、認知症は決して他人事ではなく誰にでも起こりうる身近なこととなっております。

認知症についての正しい理解を深める取組となる「藤沢市認知症ケアパス」の活用を進めてまいります。今後、権利擁護のニーズが増大することも踏まえ、安心して生活していただくために、成年後見制度などの活用も強化してまいります。

市では、全庁一丸となって、高齢者に限らず、子どもや障がいのある方などが元気に安心して暮らし続けることができるよう、「藤沢型地域包括ケアシステム」の構築を進めております。そして、いよいよこのシステムを本格的にスタートさせる時が近づいております。

地域を拠点に活動するコミュニティソーシャルワーカー

を3地区に配置し、生活課題を抱える住民への支援を実施してまいります。

利用者と家族の意向に寄り添い安心できる医療介護連携体制の構築、小学校区を基本として40か所の設置をめざす地域の縁側、健康増進やスポーツを身近に楽しむ新たな拠点整備の検討なども進めてまいります。

さらに、増加が見込まれる介護老人福祉施設の待機者への対応や、在宅生活を支える小規模多機能型居宅介護事業所などの施設整備を計画的に進め、介護離職ゼロの取組とともに、総合的に高齢者一人ひとりのニーズに合ったサービスが提供できる体制を検討してまいります。

再生から創造へ

(1) 13地区のまちづくり

本市では、13地区ごとに地域コミュニティが形成され、伝統文化、景観、自然環境などの地域の特性を生かした個性あるまちづくりを進めてまいりました。

しかし、地域間では、高齢化率や自治会町内会の加入率に大きな差が生じてきております。

こうしたことから、「高齢化」「少子化」「地域コミュニティ」「防災」など、生活者の視点から、地域特性に柔軟に対応したきめ細かなまちづくりとなるよう、都市マス

タープランの改定や立地適正化計画の策定を進めてまいります。

13地区ごとのあるべき姿やビジョンを明確にし、新たなつながりや支えあいのまちづくりを進めていくためにも地域の拠点施設である市民センター・公民館が地域の中で果たすべき役割や求められる機能を改めて整理し、頼りになる拠点施設としてどうあるべきか、検討を進めてまいります。

そして、2025年、またその先の2040年も見据え、誰もが住みやすい、人々がつながる地域となるよう、郷土づくり推進会議をはじめ、各地区の皆さんとともに、多様なマルチパートナーシップに基づく13地区のまちづくりを推進してまいります。

（２）活力を創造する自治

藤沢市は、湘南の中核的な都市として発展を続け、人口も42万人を超え、人口減少時代にあっても人口増加を続ける都市として、今なお、成長が期待されております。

これは、市制施行以来の長い歴史の中で、産業、住環境などをはじめとした基盤整備にしっかりと取り組み、多彩な活力を創造して、他の都市にはない財政力を有するまちとして発展してきた証でもあります。

しかし、急速な少子超高齢化の進展に伴い多様化、複雑化し、増大する住民ニーズや先行きの不透明な財政状況など、自治体を取り巻く行財政環境は大変深刻な状況となっており、本市にとっても市政運営は大きな転換期を迎えています。

私たちは、改革が求められるこの時を好機と捉え、社会、経済などの大きな構造変化にしっかりと対応し、未来に向かって確かなまちづくりの歩みを今こそ進めていかなければなりません。

まちの活力を創造していくためには、より柔軟に思考し、積極的に対応する行動が求められます。そのために、先進的な取組を進めてきた本市の職員一人ひとりが持つ、困難に立ち向かい、真摯に行動する熱意や能力を改めて結集し、行財政運営のイノベーションに取り組んでまいります。

藤沢市市政運営の総合指針2016については、住民ニーズに基づく課題の緊急性や重要性を踏まえ、藤沢市の可能性を最大限に広げ、未来に向けた新たな社会システムという扉を開くものとして、平成28年度はその改定を行ってまいります。

行財政改革についても、「新・行財政改革実行プラン」の検証に加え、新たな取組として、事業の選択と集中、組織執行体制のあり方、職員の意識改革、保有資産の活用や

財源確保策の検討など、これからの時代に備えた更なる改革に速やかに着手してまいります。

また、これからの財政状況は、扶助費や道路、下水道等の再整備に要する経費が長期にわたって増加するなど、これまでどおりの財政運営では大変に厳しい状況となります。

長期的な財政見通しをより精緻化し、基金や市債の活用のあり方をはじめ、予算編成、予算執行など財政運営の根本的な見直しを行い、これからの世代に大きな負担を先送りすることのないよう、未来へ向けた確かな財政基盤の構築を図ってまいります。

さらに、国家戦略特区などを活用した規制緩和や県からの権限移譲などにも積極的に取り組み、全国に誇れる元気な藤沢を創造してまいります。

（３）平成２８年度当初予算について

それでは次に、平成２８年度の当初予算についてご説明いたします。

一般会計が、１，３８３億９，０００万円

特別会計が、１，２７９億４，６５３万８千円

総額で、２，６６３億３，６５３万８千円

であります。

前年度当初予算比では、

一般会計で、 101.8%

特別会計で、 97.8%

全体で、 99.9%

であります。

平成28年度予算は、市民の皆様の安全・安心な暮らしを守り、市政運営に支障を来さぬよう、重要な事業を中心に骨格予算として編成いたしました。

なお、骨格予算ではありますが、少子超高齢化の進展に伴う社会保障関係経費の増加などにより、前年度予算額を上回る規模となっております。

政策的判断を要する新規事業や投資的事業など、政策に関する予算については、6月以降に補正予算としてご審議いただいております。

未来に向かって

以上、平成28年度の市政運営の基本方針と施策の概要についてご説明させていただきました。

未来に向けた藤沢市の道のりは、人口構造の変化や財政難など、間違いなく厳しいものとなります。しかし、厳しいからこそしっかりと現実を見据え、その先の輝く未来へ

と通ずる好機として捉え、困難を乗り越えていかなければなりません。

私は、これまでの4年間、「人の和」「元気」という未来への希望の種を大切に育ててまいりました。この種が芽吹き、困難を乗り越える新たなまちの活力となり、いつまでも愛され続ける藤沢市となることを願い、しっかりと日々の市政運営に取り組んでまいります。

オリンピックというチャンスをより実りあるものにし、一日一日、一瞬一瞬を大切に、職員とともに、人がつながり、支えあう「未来に向けた元気なまちづくり」に全力を傾注し、ここ藤沢から、これからの自治をリードする理想の市政を築いてまいります。

結びにあたり、日頃から広く市民の皆様の意見や要望を把握し、地方自治の発展にご尽力されている市議会に対しまして心から敬意と感謝を申し上げますとともに、今後とも議員各位のご指導と市民の皆様のご理解とご協力を心からお願いいたしまして、平成28年度の施政方針といたします。